

教育目標		本校の特性を生かし、豊かな感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。			総合評価			
運営方針		基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台に、コミュニケーション力、自己表現力、社会性を持った人材を育成する。 安全で安心な環境作りに努め、一人ひとりの個性を伸ばし、志の高い「生きる力」を持った人材を育成する。 県下唯一の芸術科を有する公立学校として、「誇り」と「自覚」を持ち、教職員が一体となって学校運営を進め、魅力と活力ある学校を目指す。						
平成25年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標				
道徳教育の研究指定を受け、生徒に規範意識の向上が見られた。学校行事、集会などにおいても自覚ある行動をとるよう変化が見られた。研究授業や授業評価を生かしながら、教員の授業力の向上、生徒の学力の向上、コミュニケーション力の伸張に努め成果を上げてきているが、今後も取組を進める必要がある。生徒会活動やキャリア教育、交流活動の推進にも成果がみられた。生徒の心の安定等の面での課題があり、強い精神力や豊かな人間性を育成する取組を推進していく。		学力の定着・向上と主体的な進路実現		授業改善に努め、学力の向上を図る取組を推し進める。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できるよう指導する。				
		規範意識の醸成とコミュニケーション力、社会性の育成		生徒一人ひとりの理解に努め、はじめある生活態度や他者への思いやりの心を育成すると共に、自立心を育て社会の一員としての自覚を深めさせる。				
		心身の健康や体力の保持増進		教科指導や特別活動、保健指導等をおし、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体をおし、安定した細やかな心、強い心を育てる。				
		芸術教育の推進と交流活動の展開・発信		芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりに努める。交流活動をおし、地域や保護者、関係機関との連携を深め、情報発信に努める。				
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
総務	学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上	・各分掌・グループ・学年・学科との連携や調整を密に図り、学校行事の円滑な運営を目指す。 ・担任、副担任による列内指導や授業での適切なはじめある指導を通し、集会等で私語がない状態にする。	B	B	・主要行事では、各担当で協力、補い合い円滑な運営を行うことができた。 ・生徒は自主的にスムーズに集合整列できるようになった。その反面、先生方の集合が遅くなっているように思われる。	体制に慣れて緩慢になっている部分がないか点検しながら、引き続き協力的体制の強化と改良を図る。 ホームページ作成研修会の実施と同時に、更新をうながす声かけを怠らないようにする。	さまざまな教育活動を行っていることに評価をいただいた。 卒業式の行動・態度などがよくなり、すばらしい式であった。今後も継続していただきたいとのご意見をいただいた。 ホームページを充実して、学校の様子を更に知らせて欲しいとのご意見をいただいた。	
	広報活動の充実	新聞や各種メディア等を利用した広報活動を一層充実させるとともに、中学校・学習塾等への積極的な情報提供を図り、本校のよさを広く伝えていく。	B		・本校で行った学校説明会では、4回でのべ909名の生徒・保護者の参加があり、アンケートも良い印象の物が多かった。校外での説明会にも積極的に参加し、広報に努めた。 ・ホームページ作成研修会を実施した。 ・ホームページの更新が滞り、情報発信が遅れた。			
	情報インフラ整備に係るシステム構築を目指す。	・入試システムを再構築する。(ストレス無く処理できるシステムが作成できれば到達度100%) ・学校ネットワークシステムの運用マニュアルを作成する。(すべての担当者が活用できるものができれば、到達度100%) ・分掌等から要望に応えたシステムを作成する。(すべての要望に応えることができれば、到達度100%)	B		・入試システム再構築は、進行中。(50%) 入試業務を時系列で進められるシステムを開発中。 ・マニュアルは、各項目の作業詳細まで記述し切れていない。(60%) 系統的にまとまりのあるものまで作成できていない。 ・分掌等からの要望にはほぼ応えることができた。(90%)			・これから始まる入試処理で検証しながら、課題と要望を明確にし、反映させていく。 ・各項目毎にわかりやすく整理する。
	保護者との意思疎通の向上と同窓会活動の円滑化	・育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率10%超を目指す。 ・同窓会総会、役員会等のスムーズな運営の手助け。	B		・各行事への保護者参加率を上げるための具体的な方策はできなかった。 ・総務部の人員も増え、よりスムーズな手助けができるようになった。			・事務室と連携しながら育友会との連携を強めたい。

教 務	生徒の計画的な学習による学力の定着・向上にむけて取り組む。	<p>長期休業中の宿題・課題テストの実施に関して進路指導部と連携する。これによって部内業務の効率化と生徒の学力向上を支援する。連携を図ればB、それによる成果があればA。</p> <p>シラバスの有効的な利用形態を検討する。利用形態の指針が決定すればB、年度末に次年度実施版ができればA。</p> <p>新学習指導要領に基づいて、各学科、あるいは類型の特性や生徒の進路に適した教育課程を検討する。 現状変更ありきではないので、検討の進捗状況により評価を行う。</p>	B	B	B	<p>○長期休業中の課題・課題テストについては、1・2学年の国数英で昨年度からベネッセの「スタディーサポート」を導入している。実施・運用面、内容等を進路指導部、関係教科と協議し、来年度以降の取り組みを模索・決定した。</p> <p>○教育課程については、特に普通科で見直しを行った。ⅠⅡ類型では地歴科の充実、Ⅲ類型では文理系的選択の幅を拡げることで、生徒の実情により適合するものとした。</p> <p>○シラバスについては、学科別に編集するなど、生徒に見やすく利用しやすい工夫を行っている。</p> <p>○1学年普通科における「奈良TIME」については、昨年度の内容を引き継ぎつつ充実を図り、定番化した。</p>	<p>○長期休業中の課題・課題テストについては、都度、教科・学年からの意見をフィードバックして、よりよい運用を模索する。</p> <p>○新学習指導要領のもと、入試の試験科目にも変動が見られる。生徒の進路により一層適合性のある教育課程の編成を進める。</p> <p>○シラバスは、より使いやすい冊子作りの案を作成し、見積もりを行っている。加えて、評価の観点・方法がより具体的でわかりやすくなるよう検討を進めたい。</p> <p>○9月に学校行事が集中している。それぞれの行事の意義や効果を尊重しつつ、実施時期の変更など検討が必要である。</p>	<p>家庭学習は大切であり、18歳までに家庭学習の習慣が身につくように工夫して欲しいというご意見をいただいた。</p> <p>「奈良TIME」などを通じて、地元奈良のことを更に学んで欲しいというご意見をいただいた。</p>
	総合的な学習の充実し、基礎学力の定着や表現力の向上を図る。	<p>「下学上達」に積極的に取り組ませる。その効果を各学年からフィードバックし、各学年の実態に即した内容を模索する。学年からの意見を整理できればB、それに基づいた成果があればA。</p> <p>昨年度の「高志創造」実施内容と成果を引き継ぎ、より充実した学習内容にする。「奈良TIME」の学習プログラムは定番化を図る。その際、学年移行の連携、各学科の特色を重視尊重する。</p>	B			B	A	
進路指導	生徒の自発的な学習の啓発と主体的な進路実現の支援	<p>・年間計画に沿って効果的に進路学習を進め、各学年におけるホームルーム活動、進路行事、集会を通じて、自己を振り返り、将来を展望する機会を増やす。</p> <p>・大学入試等に対応できる学力の伸長を目指し、生徒一人一人の進路希望に応じた進路対策講座の充実を進める。</p>	A	A	A	<p>・普通科対象に第1学年は類型選択前に生徒が希望する分野別に説明会、第2学年は就職・公務員・専門学校の説明と大学の模擬講義を実施した。第3学年は6日間で11校の大学別説明会を実施した。</p> <p>・第3学年は5月から実力養成講座、7月・12月にサテライン・オンライン講座を実施した。第2学年は11月から実力養成講座、12月からサテライン講座を実施した。</p>	<p>・代ゼミ模試の代わりに第1・2学年は進研模試、第3学年は進研・河合模試を校内で実施する。</p> <p>・代ゼミサテライン講座をリクルートオンライン講座へ移行する。</p>	<p>メンタル面の弱い学生や新入社員が増えているので、連携を図りながら工夫できないものかというご意見をいただいた。今後の指導に生かしていきたい。</p> <p>短大などでも手をかけないと資格を取れない学生が増えてきている。そのため保護者懇談会の充実や連絡をまめに行うようにしている。保護者への連絡は充実してきているようであるが、更に継続的によりよくお願いしたいというご意見をいただいた。今後は更に保護者への連絡などを充実させるように心がけた。</p>
	進路情報の提供の充実	<p>・「進路ガイドブック」の充実や「進路インフォメーション」の発行等による生徒及び保護者への啓発に努める。</p> <p>・個々の進路希望に対応した適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。</p>	A			<p>・「進路ガイドブック」を全学年でHR・集会などで活用した。</p> <p>・「進路インフォメーション」ほぼ月1回のペースで発行した。</p> <p>・集会、三者懇談等で進路資料を配布した。</p>	<p>進路情報を精選し、有益な情報を提供することで、生徒・保護者の進路に対する意識を高める。</p>	
	本校におけるキャリア教育の構築と推進	<p>・「キャリア デザイン ガイドブック」を編集・制作し、ホームルームで活用する。</p> <p>・保護者対象のキャリア教育講演会を実施する。</p> <p>・看護体験学習、保育所・施設訪問への参加により、勤労観、職業観の育成を図る。</p>	B			<p>・「キャリア デザイン ガイドブック」を利用してHRを実施した。</p> <p>・普通科対象に第1学年で類型選択時に生徒の興味関心アンケート「夢ナビプログラム」を実施した。</p> <p>・第2学年で「進学事典」を利用して将来の進路を考えさせた。</p> <p>・希望者による一日看護体験、希望者・家庭科による極楽坊保育所、ピア委員・音楽部による老人福祉施設訪問を実施している。</p>	<p>より多くの機会を準備し、体験することで個々の生徒がキャリアデザインを具体化できるように支援する。</p>	

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の徹底や遅刻の防止に努め、正しい言葉遣いの指導にも積極的に取り組む。特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。同時にカッターシャツ、ブラウスの第一ボタンを締めさせるとともに、服装を正し生活させる。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・一学期は明るく元気な挨拶ができる生徒が多いように感じたが、2学期に入り徐々に覇気がなくなり、又、挨拶をしない生徒が増えているように感じられた。次年度に向けて、明るく、元気良く、爽やかな挨拶ができるよう指導したい。 ・遅刻については特に11月中旬の急激な気候の変化に対応できず遅刻が増加傾向に転じた。粘り強い指導が必要である。 ・服装については、概ね良好であった。又、カッターシャツ、ブラウスの第一ボタンについては、登校指導等において一定の成果をあげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き目標にする。 ・一斉登校指導を実施する。 ・クラブ員を中心に明るく、元気な挨拶を実践させ、学校全体をリードするよう指導したい。 	<p>日々の指導の成果で、バス内の生徒のマナーはよいという評価をいただいたが、欲をいえば車中が混み合っている場合は、もう少し詰めていただければありがたいというご意見をいただいた。今後の指導に生かしていきたい。</p> <p>保育実習などに来ていただいている生徒は、しっかりした敬語を使っているため心配はいらない旨のご意見をいただいたが、更に多くの生徒が敬語を含め、その場にふさわしい言葉づかいができるように指導していきたい。</p>
	日常生活におけるマナー・モラルの周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、自転車事故や外部からの苦情等を少なくする。(昨年度の3割減を目標とする) 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故については大きな事故に繋がらず、そのような交差点での接触事故が5件と昨年より1件増加した。(時間に余裕のない行動が原因と考えられる) ・外部からの苦情は7件(昨年比-3)。特別指導は8件(昨年度比-1)と減少した。又、2学期はバス停やバス乗車中の苦情もなく、生徒たちの規範意識も向上しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や、各種講演会を実施し更なる向上を目指したい。 ・各機関から提供された情報をHRなどでアナウンスし注意喚起に努める。 	
特別活動	生徒の自主的・自発的な活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭等の学校行事への関わり、校内・校外美化活動への積極的な参加を奨励、推進する。 ・集会、学校説明会等での活躍の場を生徒会役員に積極的に与える。 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭に関しては、生徒会本部役員で昨年度の運営経験者がいなかったこともあり労力の割にはスムーズにはいかなかった。美化委員や遅刻の多い生徒と美化活動をおこなったが、他の生徒の意識にどれだけ訴えられたかは疑問が残る。 ・本部役員から募金活動をやりたいと申し出があったことは彼らの意識の萌芽を感じるころであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動は「相乗り」ではなく生徒会主導で行いたいと思う。 ・次年度に向けての役員の発掘、組織の一部改正も視野に入れている。 	<p>文化祭に保育園児を招いていただいて、生徒会の役員を中心に交流をしていただいているのはありがたい。今後とも交流を継続していただきたいとのご意見をいただいた。</p>
	学科間の交流、部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・フットサル大会を開催し、学科・各部間の交流を図る。 ・芸術科の様々な活動を学校全体の活動と捉えられるように、生徒会がその架け橋となるべく活動の方策を探る。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・フットサル大会は実施に不確定な要素を残したままではあったが実施でき功裏に終わった。 ・本部役員自身の学科やクラブの活動で手一杯で、生徒会発信のクラブ通信などはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四学科の生徒が一堂に会する行事の一つとして、例えば、芸術鑑賞会や人権相談部との共催で人権講話(イベント)などを実施できればと画策している。 	
	図書館運営の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス文庫用の図書を充実させるとともに、クラスへの利用を積極的に働きかける。 ・課題研究や資料学習等教科での利用を一層活性化させるために、各教科との連携を深め奈良TIMEを利用して関連図書の充実を図る。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス文庫を更に充実させるべく予算もある程度確保できた。 ・「読書週間」は下学上達との兼ね合いで曖昧な形で扱われたことは残念であった。 ・3年生の現代文の授業等で図書室を活用し、かなりの成果を上げたとの報告があったのは喜ばしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書の時間を確保してより徹底した形で生徒に迫りたい。 ・読書感想文で特選生徒を輩出したことを次年度にもつなげていきたい。 	

健康安全	校内・校外美化の徹底と防火、防災等に関する意識啓発	・校内及び校外美化活動を学期に1回実施する。 ・避難、消火訓練を通して防火・防災の意識向上をはかる。	B	B	・校外美化活動は、積極的に活動する生徒が多く熱心な取り組みができた。 ・避難、消火訓練は例年並の取り組みが出来たが、より実用的な内容を取り入れたい。	・月末大掃除の再開 ・生徒主体の避難訓練の実施・災害時に備えて水、カンパン等の備蓄	空調の導入などにより、生徒の学習環境がよくなってきている。今後ともよろしくしたいとのご意見をいただいた。
	健康状態を把握し自己管理出来る生徒を育成する。	・保健委員会の活動を通して健康意識の向上をはかる ・保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。	B		文化祭において保健委員会の展示発表は、参加生徒も多く健康意識の向上につながったと思われる。レシビ甲子園においても団体賞を受賞できた。	引き続き保健だより・文化祭展示発表を通して健康意識を高める。	
	・スポーツテスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営	・体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営をはかる。	B		体育委員を中心に運動部生徒や、体育科・先生方の協力のもとスムーズに行うことができた。	芝の管理計画について検討が必要である。	
人権相談	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上をはかる。	・現地研修及びバルツァゴードル(重症心身障害者施設)での研修を通して、人権問題に対する意識の向上をはかる。	B	B	今年度は横井支部での現地研修が、気象警報等の関係で実施できなかったが、今後も継続していく予定である。高人教の夏期研修等には積極的に参加していった。バルツァゴードルでの研修も例年通り実施できた。職員対象の研修会をもてなかった。デートDVの講演会は好評であった。人権HRでは、インターネットと人権なども取り上げたい。解放研の活動が出来なかった。	横井支部との交流は本校の人権教育の元として継続していきたい。人権意識を高めるため職員研修の機会をもうけていきたい。ピアクラブ委員会と解放研のあり方を検討したい。	学習障害ではないかと思われる生徒が多くなってきているので、専門機関と連携し、各生徒の指導に生かして欲しいとのご意見をいただいた。
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つなかま集団作りの取り組みを進める。	・奈良養護学校、バルツァゴードルとの交流を合計年5回実施する。	A		奈良養護学校、バルツァゴードルとの交流会は計年5回の実施予定であったが、コーラス部が奈良養護学校に3月にも交流会を持ち、更に相互力を深める予定である。講習等で現地での参加ができない生徒がいた。参加アンケート結果はおおむね良好で障害のある生徒たちへの理解を深めることができた。	交流委員が全員参加出来るような日程を考えていきたい。交流委員だけでなく、他の生徒の参加へも広げていきたい。	
	特別支援教育の充実	・ピアクラブ委員会を月1回実施する。 ・ピアサポーターとの連携を深め生徒理解に活用する。 ・スクールカウンセラーと連携し、生徒・保護者に適切な援助を行える力を高める。	B		ピアクラブ委員に文化祭での展示の指導、グループホーム訪問にむけての研修、振り返りなどを行った。ピアサポーター、スクールカウンセラーとの連携はスムーズに行えた。	来年度のスクールカウンセラーの配置が心配である。	

第1学年	さわやかな挨拶をし、返事を返すなど、基本的な生活習慣の確立と実践を図る。	挨拶の励行、敬語の徹底や遅刻の減少に努める。(各学期5回以内、年間15回以内を目標とする。)服装・頭髪等を直すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底する。	C	B	服装・頭髪等は良好である。数少ない違反生徒についても、指導により即刻改善されている。挨拶・返事・言葉遣いについては、「さわやかに」とまではできていない。遅刻指導該当者数が、1学期1名から2学期10名、遅刻回数も激増した。出席状況の経年比較では減少しているが、基本的な生活習慣の確立が求められる生徒が多い。	服装・頭髪・遅刻等の指導については、今後も徹底して指導する。尚、遅刻状況がひどいので、遅刻日の放課後に学習指導を行うこととする。	特になし
	常に目標・計画を立てるとともに、課題や小テストを課し、家庭学習の習慣づけと学力の向上を図る。	家庭学習を定着させるため、ノートや課題の提出等について工夫させ、全生徒が家庭で学習する習慣づけを行うとともに、課題提出の厳守を徹底させる。「下学上達」に積極的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	B		毎学期「目標・計画を立てる」、毎考査「2週間前学習計画を立てる」ことを全員に課し、意識付けをすることができたが、家庭学習の習慣化ができていない生徒、ノート・課題の提出、「下学上達」への取り組みが不十分な生徒も多い。	各教科・各クラブとも連携し、学習方法や課題提出の徹底を継続して指導する。	
	教科指導や部活動などをとおして、自己表現力(聞く力、話す力、コミュニケーション力)の獲得を目指す。	体育大会や文化祭など、学校行事や学級活動に積極的に参加させることで、仲間づくり、他の生徒を尊重する態度、規範意識を持たせる。	B		体育大会・文化祭・校外学習等の学校行事に積極的に参加し、クラスの団結等の目標は達成できた。すぐに目に見える成果が出ることはないが、さまざまな悩みや心配事を持っている友人にうまく寄り添う生徒が見られる。	さまざまな機会をとらえて、継続して取り組む。	
第2学年	基本的な生活習慣をより充実したものにし、本校生としての誇りと自覚を持たせ、規範意識の高い生徒に育てる。特に時間を厳守する態度を育てる。	生徒理解を深め、長欠生徒が出ないように努める。体調管理を徹底し学年としての出席率98%以上を目指す。遅刻は各学期5回以上の生徒に対しては指導を行い、不注意な理由による遅刻の減少に努める。▼身だしなみや言葉遣いなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団の中での規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の2%以内を目指す。)	B	B	2学期末の出席率は97.9%で、大半の生徒は安定した学校生活を送っているが、前年度に比べると欠席・遅刻もやや増加傾向にある。服装・頭髪について継続的指導が必要な生徒や、挨拶や対話がうまくできない生徒など、社会の一員として成長しきれない部分も見受けられる。	就寝時間が遅く、慢性的に睡眠不足状態にある生徒が多い。保護者と連携し、早寝や朝食を摂るなどの生活習慣を身につけさせる指導を行う。	特になし
	互いの個性を尊重し、ともに支え合い合う態度を養う。	HR活動や学校行事など、あらゆる機会をとらえて人権意識を高めるとともに、他者を思いやる姿勢を養い、実践する力を身につけさせる。	B		HR活動や学校行事、講演会等を通して取り組んでいる。しかし残念なことではあるがネット上での誹謗中傷や、クラスメートに対する陰口・からかい・嫌がらせなどが起こってしまった。	さらに人権教育を推進し、仲間作りや他者との人間関係を築くための取り組みを行う。	
	学力の更なる向上および、主体的に取り組む学習態度の修得、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化をはかる。	各教科の課題提出を徹底する。(提出遅れゼロを目標とする。)▼家庭学習を定着させるため、学習方法を指導し、宿題や小テストを課して習慣づけをはかる。	B		1年次に比べると全体的に課題提出はよくなったが、それでも未提出や提出遅れがでている。大体が同じ顔ぶれで保護者と連携をとりながら再三指導は行っているが、本人たちの意識がなかなか改善されていないようだ。	未提出になりがちな生徒に対しては、放課後居残らせて課題をさせてから帰宅させる指導を行う。	
第3学年	2年間で培った規範意識を一層高め、卒業後の社会生活に耐える基本的な生活習慣の確立と実践を図る。	頭髪、服装、言葉遣い、立ち居振る舞い等、を正し、社会の一員として耐える指導を徹底し自覚を促す。遅刻・早退・保健室利用者の減少に取り組む。(一学期5回以内、年間15回以内)特別指導を限りなく0に近づける。	B	B	頭髪、服装、言葉遣い、等は社会の一員として、耐える型になったように思われる。ただ、2学期以降、欠席、遅刻が増大し、ごく一部の生徒の自覚のなさに、残念な思いを感じた。3年間の指導が何であったのか力不足を感じた。	次年度がないので改善・目標が立てづらい。	特になし
	生徒個々の心身の健康を保持増進させるとともに、人間としての個性を尊重し支え合う姿勢を養う。	様々な機会、場面を(人権教育HR、学年集会、総合的な学習等)とらえて、自己を見つめ、互いを認め合う姿勢を養う。	B		生徒間でのコミュニケーションの取り方に問題あるのか、様々な人間関係問題に取り組む一年であったように思われる。SNSの展開が学校の指導を遙かに超えた感があり、我々教員の手に負える状況ではなくなっているように思われる。大きな事件になっていないのが不思議なくらいである。	同上	
	生徒の進路実現を成就させるべく、指導者としてのできる限りの支援体制を築く。	3者面談、個人面談、各種ガイダンス、面接練習、実力養成講座、模擬テスト事後指導、学年集会、科別集会等あらゆる機会を設定し、進路に対する支援体制を強化し、各生徒の自己実現に寄与する。	B		一部の生徒は自分の目標に向かって真剣に取り組んでいてそれなりの成果が出ているが、30%ぐらいの生徒は、自分のことと、捉えず人任せの感もある生徒がいる。学校側も支援体制をとっているが、良く活用されていないように感じる。	同上	